



会期：2023年10月14日(土)～2024年1月10日(水)

会場／札幌大通地下ギャラリー500m美術館

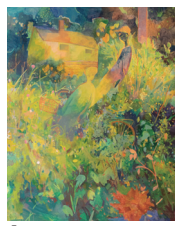
住所／札幌市中央区大通西1丁目～大通東2丁目(札幌市営地下鉄大通駅と地下鉄東西線バスセンター前駅間の地下コンコース)

時間／7:30-22:00

「鉄は赤く熱しているうちに打つべきである。花は満開のうちに眺むべきである。私は晩年の芸術というものを否定している。」これは太宰治の台詞である。少々乱暴で極端な言い方ではあるが、ある種の説得力を持つことがある。文学、美術、音楽、舞台など芸術表現の個人における劇的な成長の多くは若い時期に訪れる。匠を知る前の荒削りの技、心奪われる対象への熱い眼差し、それは自らの魂を初めて実感する瞬間なのかもしれない。古今東西の偉人と呼ばれる芸術家の若き頃の作品に誰もが驚きを隠せないのは、若き芸術家の熱き思いに共鳴するからであろう。現在社会を生きる現代の新進作家たちがどのように今を体験し、そして自らの感性をどう追求しているのか？500m美術館の試みとして、熱く熱する若き眼差しの先を検証する展覧会の第二弾である。



①



②

大西涼子 - ONISHI Ryoko
1998年札幌生まれ。自身や友人知人の体験談、SNSで散見される性差による不利益や被害を題材に絵画・ドローイングを制作している。女性が抱える性暴力被害や賃金格差、ふとした会話に含まれる扱いの優劣といった負の一面など、話しづらい性差別という話題を、ゆるいタッチで描くことで受け入れやすく、広くこの話題について共感を得たり、あたりまえと受け止めている女性軽視の視点に気づいてもらいたいと思っている。

川村正寿 - KAWAMURA Seiju
自分の身体より外側にある要素とそれに対しての身体の反応を元に、絵画制作を行う。客観的要素を自分がどのように受け取っているのかという「勘違い」とも言える主観的な体験をきっかけとして、その関係性の解釈のため絵画制作を行う。また、画面上でのやりとりの中で更に自分の元イメージをズラしたり、繋げたり、身体とイメージを漂流させていくような制作をしている。主な展覧会に2022年「3331 ART FAIR2022」「Floaters 川村正寿個展」2021年「(いつのまにか)ふつうの今日、生活は続く」「さっぽろアートステージ ART STREET University student ART Competition」など。



③



④

小里純子 - KOSATO Junko
小樽市生まれ。紙類・スタイロフォーム・石粉粘土を使って多様な顔の立体作品を制作している。ここ数年、人々は分断されてきました。自分と似たものに囲まれ、異なる考えは認めず、徒党を組んで罵りあう。そんな世間への違和感・無力感を感じても、私にできることは非効率で非合理的に、ただただ自分の手に任せ思い通りにならない粘土に向き合い作品をつくることだけでした。本来人は多様で個性的で愛すべき面白い存在のはずです。その思いを表現しているのが、性別・年齢・人種・宗教の違いもなく、上下・左右・前後に沢山の顔を持つ人々です。人々は太抵、奇妙で、格好良くなくて、どこか皆と違っていますが、毅然と存在します。そして互いにその存在を否定しません、そういう人々を表現しようと思いました。



⑤

櫻田竜介 - SAKURADA Ryusuke
1991年宮城県生まれ、北海道札幌市在住。写真・映像などの視覚媒体による経験と、リアルタイムにおける経験との差異や知覚のずれをテーマに、平面、立体、身体などのメディアを用いて作品制作を行う。主な展覧会に、「堆積した時間、その手触り」WOOD LINK furniture & gallery (札幌、2023年)、「あれを見た、それを聞いた。そして触れた。」ギャラリー門馬 (札幌、2019年) など。また、アートと地域社会との接点を増やすためプロジェクトの企画も行う。アーティストランスタジオO地点 運営メンバー。

瀬川綺羅 - SEGAWA Kira
1994年北海道生まれ。札幌を中心に活動。アクリル絵画、シルクスクリーン、立体など様々な方法で作品を制作している。無我夢中で遊び呆ける子どもの気持ちを忘れたくないという想いやその経験が、私の発想の源泉となっている。将来は公園を作りたい。



⑥



⑦

辻 悠斗 - TSUJI Haruto
2000年北海道生まれ。人間関係を草むしりに見立てた作品を制作している。2022年 写真集「丁寧な草むしり」を出版。2022年 北海道フォトフェスタ ポートフォリオレビューファイナリスト、2019年 第17回日本写真作家協会公募展 JPA展 JPAユース賞 受賞。

中野みか - NAKANO Mika (N.MIKA)
1969年江別市生まれ。美術学校油彩科出身。介護施設で働きながら、抽象画、花、コラージュ、イラストレーション多様な絵を日々描いています。自分自身何でも描ける作家でありたいと日々邁進中です。2015年から年に2〜3回のペースで主に札幌で個展で作品を発表しています。

Mai Kimura
4月1日生まれ。牡羊座。主な作品集・写真集として、2023年1月「fortune」、2022年1月「Word」など。



⑧

- ①大西涼子「わたしたちには不利なことが多い」2022年 / 1300×2300×600mm / 油彩、キャンパス
- ②川村正寿「せながあったかい」2022年 / 2273×1818mm / キャンパスに油彩
- ③小里純子「右向け左、前へならえない、全体で止まらない、進めない」2021年
- ④櫻田竜介「苗穂の壁」2022年 / 1820×2730mm / アルミ複合板にパネルマウント ※堀江理人との共作
- ⑤瀬川綺羅「星になくゾウ」2020年 / 塑造(石粉粘土、スタイロフォーム、アクリル絵具)
- ⑥辻悠斗「丁寧な草むしり」2023 / 写真
- ⑦中野みか「無題」2022年 / 606×727mm / キャンパス・絵具
- ⑧Mai Kimura「SSSSSS」2023年 / 1456×1030mm / インクジェットプリント

ご来場いただいた方を対象に WEB アンケートを実施しております。今後のより良い企画運営のため、ご協力をお願いいたします。



● 回答方法 / スマートフォンやパソコンを使って下記URL又はQRコードからアクセスしご回答ください。

札幌市公式HP ホーム > 教育・文化・スポーツ > 文化・芸術 > 札幌市所管の文化施設について(指定管理者制度など) > 札幌大通地下ギャラリー「500m美術館」

https://www.city.sapporo.jp/shimin/bunka/500mbijutukan/2023_questionnaire500m.html

「emerging artists 2023」
2023年10月14日(土)～2024年1月10日(水) 札幌大通地下ギャラリー「500m美術館」